

様式第1号（第3条関係）

飯田市市田柿特認生産者認定(更新)申請書

令和6年5月10日

飯田市長 佐藤 健 様

必須記載項目です。
法人の場合は代表者氏名、法人番号も記載してください。

申請者	住所	飯田市鼎東鼎281番地		連絡先	0265-21-3217
	フリガナ	イイダ タロウ	フリガナ		
	個人・法人名	飯田 太郎		代表者氏名 (法人のみ)	
	生年月日 法人設立年月日	昭和 ◆ 年 ◆ 月 ◆ 日		法人番号	

飯田市市田柿特認生産者認定制度実施要綱第3条の規定に基づき、特認生産者の認定を 受けたいので ・更新したいので 申請します。

記

1 添付書類

- (1) 市田柿生産規模拡大計画書（様式第2号）
- (2) 干上出荷量がわかる書類

市田柿生産規模拡大計画書

申請者 飯田 太郎

1 農業経営の現状及び目標(認定農業者は記載不要)

認定農業者は記載不要です。

① 経営の構成	氏名 (法人経営にあたっては役員 の氏名)	年齢	代表者との 続柄 (法人経営は 役職)	現 状		目 標 (5年後)	
				担当業務 (専・兼業)	年間農業従 事日数(日)	担当業務 (専・兼業)	年間農業従 事日数(日)
	飯田太郎	◆	(法人代表者) 本人	柿、野菜(専)	300	柿、野菜(専)	300
	飯田花子	□	妻	柿、野菜(兼)	100	柿、野菜(専)	250
	飯田一郎	△	子	柿(兼)	100	柿、野菜(専)	250
				()		()	
				()		()	
②年間農業所得				3000千円		5000千円	
③年間労働時間(主たる生産者)				1500時間		1500時間	
④農業経営全般の概要				<p>現在、市田柿と野菜(アスパラガス、きゅうり)を生産しており、夫婦で経営している。市田柿の加工期になると、臨時に雇用しながら経営をしている。 市田柿は農業所得の全般を占めており、今後の農業所得向上へ向けて、規模拡大を計画する。</p>			

2 市田柿生産の現状及び規模拡大の目標

(1) 栽培面積					
① 所在地	所在地	現状面積 (a)	並んだ圃場であれば本数はまとめていただいても構いません。		植栽本数 本
			本	面積 (a)	
所有地	飯田市鼎名古熊 000	5	}	50	5
	001	10			10
	002	5			5
	003	5			5
	飯田市鼎切石 004		}	10	1
	005				2
	006				3
借入地	未定				10
市田柿経営面積合計		25 a	50 本 (幼木 20 本)	36 a	70 本 (幼木 10 本)

(2) 生産全般について					
		現 状		目 標 (5年後)	
①作業 受託	受託内容				
	受託面積	0 a		0 a	
②生柿 買取	買取量	0 k g		5 0 0 k g	
③生柿出荷先・出荷量		現状出荷先	現状出荷量 k g	目標出荷先	目標出荷量 k g
			0		0
④干柿出荷販売先 ・出荷販売量		現状出荷先	現状出荷量 k g	目標出荷先	目標出荷量 k g
		農協	8 0 0	農協	1 2 0 0
		個人	3 5 0	個人	7 0 0
				インターネット	6 0 0
		計	1 1 5 0	計	2 5 0 0
⑤ 工 程 の 規 模	消毒機械	SS 1 台・手動 2 台		SS 1 台・手動 3 台	
	柿剥き機	1 台		2 台	
	柿干し場	1 5 0 m ²		2 5 0 m ²	
	粉だし機	1 台		1 台	
	選果機	1 台		1 台	
	乾燥機	台		1 台	
	予冷库	台		1 台	
	除湿機	台		台	
⑥ 雇 用 者	常時雇(年間) 実人数	0 人		0 人	
	臨時雇(年間) 実人数 (延人数)	(0 人)		(0 人)	
	臨時雇(季節) 実人数 (延人数)	3 人 (3 0 人)		5 人 (1 0 0 人)	
⑦現状の加工方法と将来の拡大目標の具体的方法		<p>農協と個人へ販売している。 生柿の生産は自分の土地のみで栽培している。皮剥きは1台で行っており、皮剥き後はすぐに自宅横の柿干場で乾燥させる。乾燥機、除湿機は使用していない。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>可能な限り具体的に記入。 達成可能な目標をたてるようにしてください。</p> </div>		<p>今後は、農協と個人への出荷を増やし、インターネット販売も長男が経営に参加するので計画している。 現状場所は決めていないが、借地を増やして生柿の買取も実施したい。 生柿収量の増加に伴い、皮剥き機は1台増やし、干し場も新たにパイプハウスを増設する。 また、加工面の効率化を図るため、乾燥機を導入し、忙しい時期は臨時雇用も増やして作業する。 生柿保管用の予冷库整備も計画する。</p>	